

日本語学校  
進学御担当者 様

日ごろお世話になっております。

私は学校法人東京ドリーム学園専門学校インターナショナルスクールオブビジネスの職員の者です。当校は日本語学校及びビジネス専門学校を併設する学校法人です。所在地は東京都豊島区巢鴨3-8-1にあります。

今後は当校へ進学させるのをとりやめるようお願いいたします。学生にとってなにひとつメリットはありません。学校閉鎖の可能性も濃厚です。現在当校では深刻な違法経営が続いており、学校自体もはや留学生を受け入れる教育機関の体をなしていません。

理由についてご説明させていただきます。

まず2016年5月13日から理事長職が元理事長である貝原秀輝氏に代わりました(3年ぶり再就任)。事実上の乗っ取りです。物騒な表現ですが事実です。貝原秀輝氏についてはインターネットで検索していただければどのような人物か確認できます。

そして5月13日以降、深刻に違法な学校運営を行っています。具体的には、愛人やその他反社会的勢力と思しき人たちを連れて学校に居座っています。業務を行わない新しい人間が要職に就き、高給をむさぼり、あやふやな運営をおこなっています。そして学校資金を異常な速度で費消しています。貝原氏以外の中心人物が中野スクールオブビジネスからきた遠山賢一氏と松山学園から来た佐藤仁氏です。彼らは利益のみを優先する経営方針であるため、多くの教職員が反発しましたが、反発した人間の多くが退職を迫られました(資料1)。

学校内部資料なので本来であれば、外部の方にお見せするものではありませんが、緊急時であるためお含みくださいませ。

資料1 2016年退職者リストおよび貝原一味リスト 新社員のみ給与掲載

資料2 支払いに関する資料(支払稟議書およびネットバンキング)

資料3 教職員間で出回っている内部のメール

資料4 週刊現代記者の質問状

資料1にあるように全体の半数の人間が新体制発足の2か月足らずで退職することになります。しかしわれわれ教職員の一番の心配は現在在籍している学生、そしてこれから入学する学生の安否です。どうか当校への学生の送り出しは、ご遠慮ください。決して学生のためになりません。教育環境が劣悪なうえ、閉鎖する可能性も濃厚です。仲介会社へのコミッションも猶予するようにと通達が出るほどです。教職員としてもここへ来てはいけません。醜悪な老人(理事長)をパパと呼ぶ愛人(出口すみこ氏)や詐欺師(遠山賢一氏、

佐藤仁氏)のような連中が集うところはすでに教育機関ではありません。

特に新理事長は学校教育のことなど毛頭考えておりません。学校不動産を担保に借入を行いギリギリまで行い学校を食いつぶすことを考えております。実際に5月からの資金流出は深刻なもので、2016年3月31日現在学校の預金口座残高は280,000,000円以上あったものが、2016年7月末には学校の預金残高は25,000,000円ほどになる見込みです(資料2)。貝原氏が経理から通帳を取り上げてしまったため正確な数字データがありません。支出用途はおろか正確な支出金額も不明です。おおよその支出のみわかるだけです。確認したところ定期預金などが解約されていました。ご承知の通り学校経営の場合、学費収入はほとんど年度終りの2月3月4月に資金が集中します。したがって12月までまとまった収入はほとんどありません。通常の金融機関からの融資はすべて断られましたため、貝原氏はノンバンクから不動産を担保に資金を借り入れるとっていました。通常の金融機関から融資を断られる理由は貝原氏が学校から500,000,000円ほど借り入れているのが原因です。学校のお金を横領したものを借入金として処理しているのです。実質的な横領ですが、税金逃れのため借入金としています。そして経営自体もすでに成り立たないレベルになっています。にもかかわらず、なぜか芸能人や東京都議員などを学校に呼んで挨拶をさせ、そこでも寄付として100万円ほどを都議らに現金で手渡ししていました。6月中旬から後半の出来事です。こうしたことから資金ショートの可能性が濃厚です。

また、そのような台所事情からか学生をできるだけ多く入学させ、すこしでも問題がおきれば退学処分にし、新たに学生を募るようと教職員に指示が出ました。国際問題になりうる話で、多くの教職員が反発しましたが退職を迫られました。退職者のリストを見ていただければお分かりの通り、経理や学科長、入試担当、アルバイト担当など学生に必須の役職の人間が退職を迫られました。

内部の職員の間でも自分たちの状況の深刻さについてのメールが出回りました(資料3)。すぐにまた魔女狩りのような状況になり教育現場としてあるまじき事態となっております。現在学生募集で外の顔になっている遠山賢一氏は学校内の複数の女性職員と不倫関係にありそれを指摘され学内では孤立しています。彼は貝原氏から便利屋のように扱われ職員が退職する中、一人だけ給料が大幅に増額されるという妙な話になっています。すべてを理解して笑顔で業務をおこなっているのをみると彼の人格を疑います。

2016年6月上旬に複数回、週刊現代の記者の方が取材に来られました。

おおよその質問内容は以下の通りでした。(資料4)

- ・貝原氏がかつて理事長であった時期の2009年3月31日～2011年1月28日までの間で架空の理事会を5回開き、合計581,891,166円の学校資金が横領されているが事実か？  
当時の理事は、印鑑が偽造されていると話しているが事実か？
- ・2012年～2013年前半にかけて福岡県大牟田にある指定暴力団D会へ少なくとも

50,000,000 円の学校資金が流出しているのは事実か？

- ・現在貝原氏が指定暴力団 N 会（D 会からの分派後継団体）S 氏と懇意にしているとのことだが事実か？
- ・学校資金の横領ということで警察が捜査に入ったというのは事実か？

という内容のものでした。

貝原氏は理事長室にこもって記者との対応はせず、かわりに側近の人（山中英博氏）がとても動揺した様子で理事長室と記者の間をいったりきたりしながら、ぎこちない笑顔でよくわかりませんと回答していました。それをみて教職員はこの学校の将来をあきらめました。（あとで個別に記者の方からお話を聞きました。）

正直今の学校の内情は最悪です。遠山賢一氏、貝原氏が連れてきた佐藤仁氏（記者の話によると千葉県松戸市にある学校法人松山学園の乗っ取り事件、酒田短期大学補助金横領事件の首謀者、）が海外から学生を集めてくると通達してきました。形だけの教員も募集するとのことでした。

佐藤氏からは最初の学費さえ支払えば、学力が未熟でも構わないし、経費支弁者のチェックもしなくていいというどうしようもない指示がでました。

何も知らずに外国人留学生が当校に来るのは絶対に彼らのためになりません。2013年には中国人留学生が自殺したこともあったのですが事故死で処理されました（千葉江里子先生のクラス）。教育機関として全く成り立っていません。

情けない話ですが我々教職員も生活があるため公然と声を上げられません。職員の退職後、退職者の家に来て「なにも余計なことは言うな」と脅迫する輩です。職員は学校では怖くて何もできないのが実情です。貝原氏はすぐに反社会的勢力をちらつかせます。実際にそのような方が学校に来ることもあります。過去5代の経理はすべて退職を迫られています。お願いします。どうか ISB に学生を送りださないようにしてください。もし知合いが ISB に在籍していれば確認ください。その上で学生を送りださないようにしてください。できれば学生へも拡散してください。未来ある留学生のためにも何卒ご検討くださいませ。

最後に、在籍教職員の平均勤続年数は 2 年を下回ります。職場環境としても劣悪です。賞与や昇給をちらつかせて職員が退職するのを防ごうとしていますが、当校は実質的な債務超過で、もはや死に体です。当校から条件の良い求人がでて絶対にくのみにしなないてください。遠山賢一氏、佐藤仁氏の話すことは信用してはいけません。

※一部職員が 6 月末に警視庁へ添付資料等をもって内部告発しております。また、東京都、文科省などの管轄へも同様の手紙をしたためております。

学校法人 東京ドリーム学園 専門学校インターナショナルスクールオブビジネス

内部職員 一同